

岡谷市主催「第一回岡谷 こどもエコクラブ」に参加

【南信森林管理署】

からかさだいら

五月十一日、岡谷市唐笠平キャンプ場にて、岡谷市主催の「第一回岡谷こどもエコクラブ」に、当署から六名が参加しました。

岡谷こどもエコクラブは、市内の六つの小学校を対象に、環境に興味のある児童を募集し、年間を通して様々な講義を行っていきます。今回は「森を守る仕事」を取り上げたことから当署へ講師依頼があったもので、一年生から六年生の二十三名とその保護者が受講しました。

講義では、初めに紙芝居を用いて森林のはたらきを説明し、その森林をどう守るのか、保安林や森林管理署の役割などをパンフレットを活用して



紙芝居「森林からの贈り物」



理解を深めてもらいました。

その後、周辺の森林を地面から木の上まで注意深く観察しながら、松ぼっくりや虫の卵、切り株等を見つけてる森林ビンゴゲームを行いました。このほか、木の種類や高さ、太さなどを当てるクイズ、調査に使う道具やカラマツ、ヒノキの特徴などについて紹介を行いました。

児童たちからは「森を歩くのが楽しかったから、また来たい」などの感想が出され、最後に、市の職員が煮出した「クロモジ茶」を味わい閉講となりました。

今回の活動に参加した児童たちは、きっと森林の大切さを実感したことでしょう。



森林ビンゴでの探索の様子

風とせせらぎの森 〜きんたろう倶楽部の活動〜

【富山森林管理署】

おおさわの

五月十八日、富山市大沢野国有林において、「社会貢献の森」づくりの協定を締結しているNPO法人「きんたろう倶楽部」と連携し、侵入している竹の除去作業を行いました。

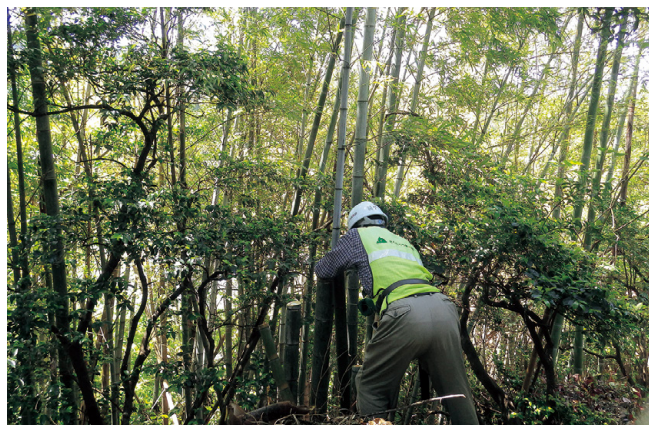
同国有林は、風害を防止する防風保安林に指定されており、平成二十二年から活動の一環で、森林の機能維持対策として森林整備活動を行っています。

当日は、晴天の中、倶楽部の会員六名と当署職員四名で防風林に侵入している竹をノコギリで切り倒し、チップパーで粉砕して林内に戻す作業に汗を流しました。

竹の除去は、昨年、富山県内で多発したクマの出没に対する防止効果も期待されるため、引き続き取り組んでいきます。



除去した竹のチップパーによる粉砕



竹の除去作業中

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南木曾支署与川森林事務所】

森林官 山田 正孝

与川森林事務所は、長野県南木曾町に所在し、南木曾国有林約三、五〇〇ヘクタを管轄しています。

南木曾国有林は、南木曾町の北東に位置し、木曾山脈（中央アルプス）南部の摺古木山（二、一六九メートル）から、その西の方角にある南木曾岳（一、六七七メートル）に挟まれた地域です。



保護林内に育つ次の世代のヒノキ

南木曾岳山頂周辺は、木曾ヒノキなどの天然林が生育するほか、一部には、木曾谷では希少なブナを中心とする落葉広葉樹林も見られることから、「南木曾岳生物群集保護林」に指定し、保護と管理に努めています。

当事務所には森林官一名（筆者）が配置されており、間伐など発注業務の監督をはじめ、シカなどに



野生動物に幹の皮を剥がされた木

よる被害状況の確認、豪雨後の林道点検・災害調査など、幅広い業務に従事しています。

また、広大な面積を管轄しているので、中にはシカによる食害で植栽した苗木が消失したり、豪雨等により土砂崩れが生じたりしている箇所があります。このような場合、そのままにして大丈夫なのか、再び植栽するのか、土砂崩れが広がらないような工事をする必要があるのかなど、森林の経済的価値も考慮しながら、今後の手入れや管理の方法を検討することになります。自然を相手にした作業になるので、結果が出るまで長い時間がかかりますが、それも夢があつて楽しいものです。

先ほど、シカによる苗木の食害に触れましたが、このほかにもノウサギによる食害やクマにより幹の皮を剥がされる被害が発生しています。繰り返し被害を受けると、枯れてしまうため、シカ等が嫌う薬剤を穂先に散布したり、樹皮を剥ぎにくくするために幹に専用のテープを巻き付ける対策にも取り組んでいます。

■未来の担い手へのメッセージ

森林官の経験年数は通算三年であり、この間にあらためて感じたのは、現地へ行って森林を直接観察して状況を読み取ることが大切であるということです。これからも、より良い森林づくりにつなげられるよう森林から教わるつもりで、業務に励みたいと思っています。

この職場は、貴方の進路の選択肢に加わったでしょうか。



間伐作業を行う業者へ説明する筆者

■自己紹介
 平成二十一年に先代の理事長が若くして亡くなり、現場の手伝いしか経験のない私が会社を任せられることになりました。何とか会社を繋いで存続させたい、と気が付けば十五年が経っていました。
 地域の産業として、森林整備、素材生産、製材、木材加工と山と共に生活をしています。森林を育てて生かす仕事「伐って、使って、植えて、育てる」全ての工程に携わる仕事をしています。



白鳥林工協業組合
 代表理事
 みやざえ
美谷添 里恵子

「山を愛する人材を育てる」

シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

■活動内容

我が社は、平成七年に県下で初めて高性能林業機械を導入して「車両系作業システム」を取り入れました。しかし、岐阜県は急峻で尾根や谷が入り組んだ地形が多いため、最近では「架線系の作業システム」の必要性を痛感しています。架線集材には特殊な技術が必要なため、若い技術者が日々研修



架線集材技術習得のための研修

を重ねて技術を習得するよう努力しています。今後は、必ず架線による集材が必要になってくると思っています。

■メッセージ

森林技術者の育成、確保は長年の重要課題ですが、平成十五年度から始まった、国の「緑の雇用」事業にはいち早く手を挙げて、第一期生から現在まで多くの研修生を受け入れ、現在働いている十一人の林業従事者は全員が緑の雇用の研修生です。他にも、毎年岐阜県森林文化アカデミーの学生さんや地元高校からインターンシップを受け入れ、多くの学生に林業を体験し、将来地元の山を守ってくれる人材を育てています。また、夏



新しい生命の植え付け

休みには、近くの子供たちに製材で生じた端材を無料で提供し、木工作品を作ってもらっています。
 美しい自然に囲まれている私たちの故郷、この素晴らしい自然を守り、地元で生きぬき、林業を次世代に繋いでいくことを目指し、今後も山を愛する人材を育てていきたいと思っています。



インターンシップの受け入れ

■連絡先

岐阜県郡上市白鳥町大島
 字向野一五四六
 白鳥林工協業組合

<http://www.shiratori-rinko.or.jp>



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第38回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「裏木曾」その二

江戸時代の出ノ小路大材伐出

裏木曾では室町時代の頃から大材を伐出した記録があるようですが、歴史的にも特に重要な事例として一八三八年（天保九年）、出ノ小路（現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）での大材伐出が挙げられます。



出ノ小路大材伐出時の陣屋（役人の小屋）の様子
（『付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解』より）

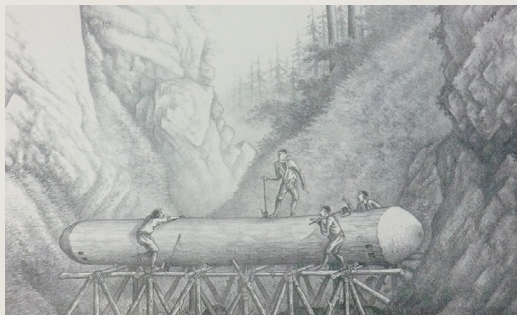


昭和16年、出ノ小路事業所の様子
（現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）

これは大火で焼失した江戸城西の丸の再建の管理に苦勞していた尾張藩にも莫大な献木と献金が強いられることとなりました。幕府と尾張藩の役人が豊かな山林として知られる出ノ小路に大勢派遣され、住民も動員して行うことになった大事業は、この地で資源面でも感情面でも大きな問題を起こし、後に木曾山林の総鎮守となる護山神社の建立にも繋がることになります。

大規模な伐出事業の様子は絵図としても残され、人力と斜面と水の流れを利用した当時の伐木運材の風景を垣間見ることが出来ます。幾つもの関連資料が作られています。これらで描かれている木のサイズには大変大きなものもあり、実際よりもデフォルメされているのかどうかは意見が分かれるところです。

「上絵図」出ノ小路大材伐出の絵図を元に明治前期に作られたリトグラフ（右版画）



「下写真」昭和二十年代頃の伐採の様子（現在の東濃森林管理署付知裏木曾国有林）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを讀み込んでください。



イヌワシの生息にふさわしい森

米子^{よなこ}希少^{きせう}個体群^{こたいぐん}保護林

設定目的

希少種であるイヌワシの生息適地となる自然環境が残されていることから、その生息適地である森林の保護・管理をしています。

地況・林況

四阿山^{あすまのさん}(二、一三三三ト)や奇妙山^{きみょうさん}(一、六二九ト)等に囲まれ、不動滝^{ふどうたき}や権現滝^{ごんげんたき}など落差約八〇トに及ぶ雄大な瀑布の上部に位置しています。

カラマツ、ウラジロモミ、スギ等の針葉樹やミズナラ、カンバ等の広葉樹から構成される天然林が分布しています。

所在地
長野県 須坂市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

十八年前の全国植樹祭にて
お手植えの樹は今

平成十八年に岐阜県で開催された第五十七回全国植樹祭においてお手植えされたのは、ウスズミザクラ、イチイ、ホオノキ、ネムノキ、トチノキ、キハダの六本です。樹木の周囲は木柵とネットに囲まれているため、直接触れることはできませんが、いずれの樹も枝を大きく広げて順調に成長しており、一番伸びているホオノキは、高さが一〇メートルを超えていました。



第57回全国植樹祭記念式典会場の現在
(岐阜県下呂市萩原町四美)

右端の建物に御座所(=両陛下が着座された席)が設けられた建物の左側には、成長したウスズミザクラ、ホオノキなどが見える



左からウスズミザクラ、ホオノキ、イチイ(天皇陛下お手植え)
下段左から、トチノキ、ネムノキ、キハダ(皇后陛下お手植え)



全国植樹祭が実施された場所は、「皇樹の杜」と命名されました。機会があれば、足を運んでみてはいかがでしょうか。



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

4月下旬、奈良文化財研究所が、1300年近く前の奈良時代に創建された東大寺東塔(七重塔)の高さは33丈(97m)ではなく23丈(68m)だったと記者発表しました。「それがどうした」と言われそうですが、23丈だったとしても現存最大の東寺五重塔(55m)より高いのです。最上部の相輪と呼ばれる飾りが26m、木造部分は42m、塔の中央にある心柱の直径は上部の相輪部分で1.3m以上と推定。その当時、周辺には大木の育っている山々があり、伐採や搬出、材木を用途別に加工するための道具と技によって塔を組み上げることを可能にする非常に能力の高い職人集団が存在していたわけです。

建築を可能にした権力に関してはさておき、はるか昔に15階建てビルに相当する高さまで人力のみで足場を組んで作業する姿は尊敬に値します。こわくて自分にはできそうもないです(-;-)

東大寺東塔の復元研究の成果報告書は奈良文化財研究所のHPに無料公開されています。68mもの高さにより生ずる自らの重さに耐えるか、荷重解析も行われています。興味のある方は以下のコードからどうぞ!



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

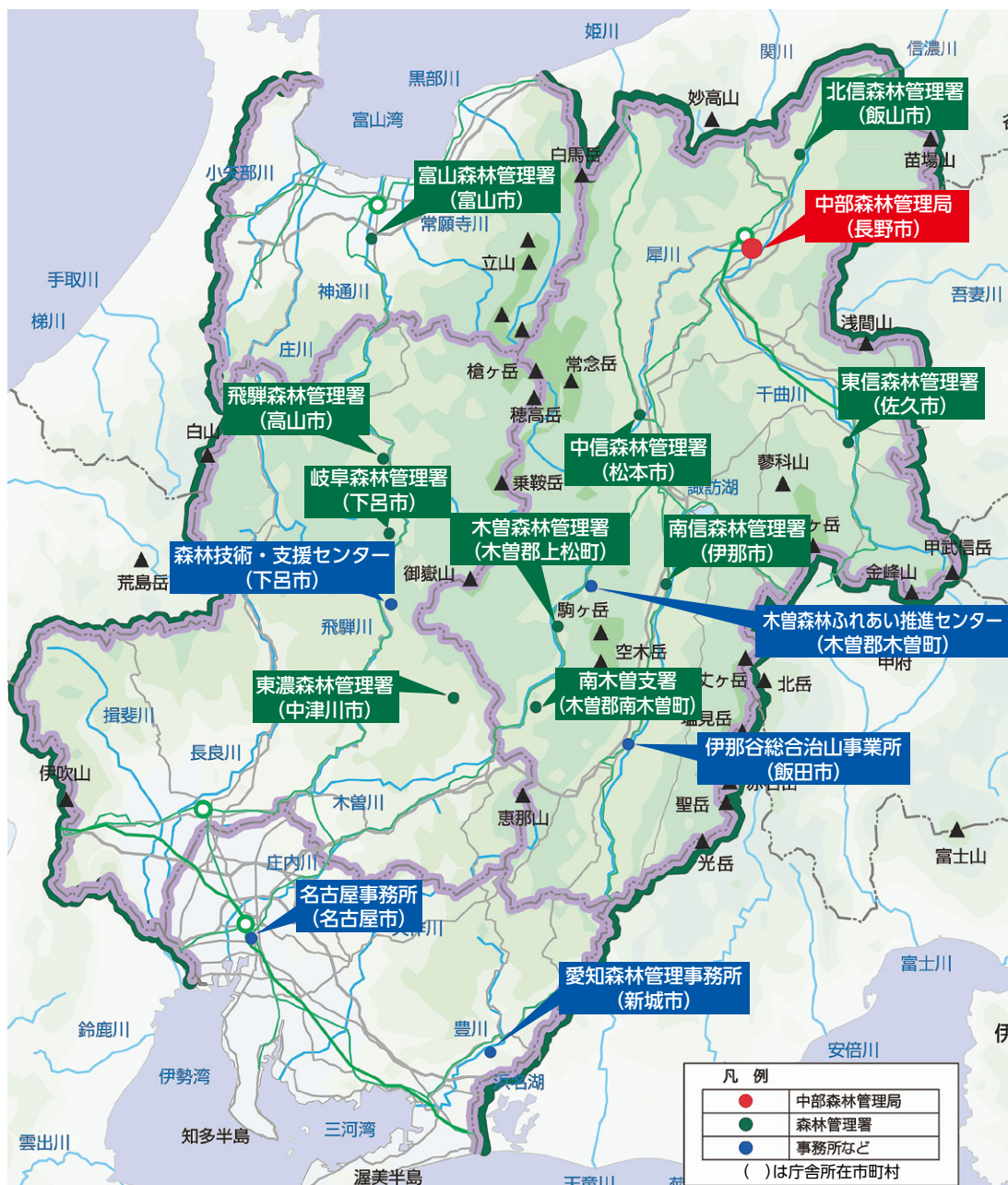


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。